

自閉症のある子どもの**自立活動の指導**について考えよう！

失敗すると激しく落ち込むカノンちゃん



自分の伝えたいことを衝動的な行動で表すだいすけくん



ナイセ博士

カノンちゃんとだいすけくんの先生は、困っている様子ですね。でも、困っているのは、先生だけでしょうか？
2人の先生と一緒に、なぜ、このような状況になったのかを振り返ってみましょう。

子どもの姿から、実態を振り返ってみましょう

子どもの立場になって行動の意味を考えてみましょう



失敗しちゃうと
恥ずかしいから行きたくない！
でも、体育は好きなんだよね…

お家では大丈夫
みたいですけど、
学校に来ると
おなかが
痛くなる
みたいです。



いつも誘いに行っているけど、
授業に来ない日が増えたよね。
おなかの調子が
心配だね。



ぼくは、ちゃんとやっているのに…
先生は、何で怒ってばかりなの？

だいすけくんは、自分勝手な行動ばかりで、
授業に最後まで参加できないので困って
しまいます。



そうですね。
でも、だいすけくんは、
なぜ、机の上に乗ったの
でしょうか？



私は、だいすけくんが、
先週の授業で作った教材を使おうとして、
それを取ろうとしていたように思えました。



机から落ちたら危ないとばかり
思って、だいすけくんが前回の
教材を使おうとしていたと
考えもしませんでした。

おなかが痛いのは、
もしかしたら心理的な
問題かもしれないですね。

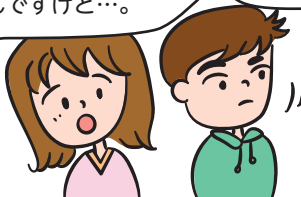


確かに、あの時、すごく
恥ずかしそうにして、
急に「おなかが痛い」
って言ってました。

体育の授業で、
みんなの前で跳箱を
跳べなかったと、
落ち込んで
いました。



高学年になって、交流先に
慣れてきて、友達との
関わりが増えてきました。
本当は、体育が好きだし、
交流先に行きたいと
思うんですけど…。



友達が何を考えているのかがわかる
ようになってきたのでしょう。
それで、周りが気になり、
友達の反応に敏感になっているの
かもしれませんね。

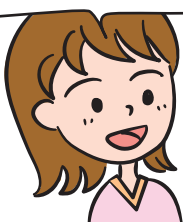


だいすけくんは、伝えたいこと
があるけれど、先生にわかる方法で
伝えることが難しいのですね。



「やだ！やだ！」と叫んでいたのは、
教材を取ろうとしていたのに、
私が止めようとしたので、
教材を「取りたい」ということを
伝えなかったのですね。

カノンちゃんの気持ちに寄り添い、
自分の気持ちや友達がどう思っ
ているのかを一緒に考えながら
理解を広げてあげたいです！



ただ、おなかが痛いだけ
ではなかったんだね。
周りの友達のことを
気にしていたんだね。



だいすけくんの思いが、相手に伝わるように
指導していきましょう。だいすけくんは、
学習意欲が高いですね。一見すると困った
行動に見えますが、彼のやる気の裏返しかも
しれませんよ。



だいすけくんが、なぜ、
この行動をするのだろうと考えることが
大切なのですね。だいすけくんの学習への
やる気を認めながら指導したいと思います！



子どもがどのような時に困難さを示したか、どのような場面で主体的に（意欲的に）学んでいたのか、それらの理由を振り返ることは、子どもの実態をより深く理解することにつながります。個々の子どもの実態（困難さと長所やよさ）から、その子どもにとって必要な指導内容を考えるのが、「自立活動の指導」です。次では、自立活動の指導とは何かを確認しましょう。その上で、カノンちゃんとだいすけくんの自立活動の指導目標と指導内容を一緒に考えてみましょう。

自立活動の指導とは？

自立活動の指導は、個々の子どもが自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動です。

自立活動の内容は、6区分27項目で構成されています。



詳しくは、
「学習指導要領解説
自立活動編」を！



健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事
- (5) 健康状態の維持・改善に関する事

心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関する事
- (2) 状況の理解と変化への対応に関する事
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事

人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事
- (2) 他者の意図や感情の理解に関する事
- (3) 自己の理解と行動の調整に関する事
- (4) 集団への参加の基礎に関する事

環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関する事
- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事
- (4) 身体の移動能力に関する事
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事

コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
- (2) 言語の受容と表出に関する事
- (3) 言語の形成と活用に関する事
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

自閉症の子どもに見られる困難さの例

じかつろう

体調の変調がわからず無理してしまう(健1)、感覚の過敏さやこだわりによって情緒が不安定になる(健4)ことがあります。



興奮した気持ちを静めたり(心1)、急な予定の変更に対応することができず不安になる(心2)ことがあります。

他者と関わる方法が十分に身に付いていない(人1)、言葉や表情などから相手の意を読み取ることが難しい(人2)、自分の長所や短所に関心が向きにくい(人3)ことがあります。

聴覚や触覚などの過敏さがあるために強い不快感を抱き、それにより感情や思考が混乱することがあります(環2)。「もう少し」などの抽象的な表現を理解することが苦手であったり、興味のあることに没頭して活動の全体を把握できない(環4)ことがあります。



自分のやり方にこだわったり、手足を協調させてスムーズに動かすことが難しかったり(身5)します。

相手には理解されにくい方法で意思や要求を表出する(コ1)ことがあります。自分の考えを相手に正しく伝えたり、話を聞く態度が適切でなかったり(コ2)します。会話の内容や周囲の状況を読み取ることが苦手で、場にそぐわない受け答えをすることがあります(コ5)。



※例えば、(コ1)は、「コミュニケーション」の「(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事」を指します。

子どもの実態からつきたい力(指導目標)と指導内容を考えましょう

カノンちゃんの自立活動の指導目標と指導内容を考えてみましょう



1 6区分で学習上・生活上の課題と長所やよさを整理して、中心的な課題を考えましょう

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 興味のある学習には意欲的に取り組む【心(1)】※ △ 失敗等によるネガティブな気持ちを言葉で伝えることができず、激しく落ち込む【心(2)】 	<ul style="list-style-type: none"> △ 友達や教師の言葉や表情に非常に敏感であり、正しく理解することが難しい【人(2)】 △ 自分の気持ちをどう伝えればいいかわからない【人(3)】 			<ul style="list-style-type: none"> △ 友達や教師の言葉や表情から状況を読み取り、やりとりを続けることが難しい【コ(5)】

中心的な課題

○失敗すると落ち込んでしまう気持ちを、どのように伝え、対処すればいいかわからない

○友達や教師の言葉の意味や気持ちを正しく理解することが難しい

カノンちゃんの場合、失敗をすると落ち込みが激しくなるのは、失敗することで友達や教師にどうみられるかを非常に気にしているからだと思います。

そのため、自分の経験を振り返り、その時の自分の気持ちや友達の反応について整理し、正しく理解するとともに、落ち込んでしまう時にどうすればいいか、一緒に考えていくことが必要ですね。

また、交流学級では、成功体験を積むことで、カノンちゃんが自分の得意なことについて知ることができると良いですね。



2 長期目標と短期目標を考えましょう

長期目標

自分の気持ちや友達の反応を正しく理解し、状況に応じて自分の気持ちを伝えることができる

短期目標

自分の経験を振り返り、自分の気持ちや友達の反応について整理し、落ち込んでしまう時の対処方法を見つける

個別の指導計画を作成する時は、長期目標は「1年間」、短期目標は「学期ごと」で立てましょう。

カノンちゃんの長所やよさを活かした指導ですね！

3 短期目標を達成するために、具体的な指導内容を考えましょう

①自分の経験を振り返り、その時の自分の気持ちや友達の反応について知る。

- カノンちゃんがとらえる自分の気持ちについて、教師は共感的に受け止め、教師に言葉で伝えることで落ち着く経験を積む。【心(1)】
- 成功した経験や失敗した経験について、注目してほしい観点(自分の気持ちや友達の反応等)を事前に明記したワークシート等を用いて振り返る。【人(2)、(3)】

②落ち込んでしまう時の対処方法を見つける。

- カノンちゃんの学習意欲が高い内容を取り入れ、友達から良い評価をもらう等の成功体験を積み、自分には得意なことがあることについて知る。【心(1)】
- 特別支援学級や交流学級での授業で振り返りを行う際に、学習や活動がうまくできなかった時の気持ちについて話し合い、友達はどんな対処をするかについて知ること、自分にあつた対処方法について考える。【人(2)、(3)、コ(5)】

※【 】は、6区分27項目の内容を指します。

カノンちゃんは、「心理的な安定」と「人間関係の形成」の項目を関連付けは指導しましょう。



交流先の先生ともカノンちゃんの自立活動の指導目標を共有しましょう。

だいですけくんの自立活動の指導目標と指導内容を考えてみましょう



1 6区分で学習上・生活上の課題と長所やよさを整理して、
中心的な課題を考えましょう

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	△気持ちを抑えることができず、すぐに行動にうつしてしまう 【心(1)】 ◎学習意欲はあり、積極的に取り組もうとする【心(3)】	△思い通りにならないと、逃避してしまう 【人(1)】			△自分の思いや考えを言葉等で相手にわかるように伝えることが難しい【コ(1)(3)(4)】 △逃避すると、教師がいくら言葉かけしても応じない【コ(2)】

中心的な課題

○積極的に学習に取り組もうとするが、思ったことをすぐに行動にうつしてしまう。

○自分の思いや考えを衝動的、あるいは逃避といった行動で表現するため、相手に意図が伝わらずに注意されてしまうことが多い。

だいですけくんは、やりたいことや伝えたいことがある時に、言葉や相手にわかる方法で表現するのではなく、衝動的な行動で表現してしまいます。また、思い通りにならなかった時の「嫌だ」という気持ちの伝え方がわからない、そうした気持ちを抑えることが難しいために、その場から離れてしまうんですね。このため、だいですけくんの**中心的な課題は、相手のことを意識し、自分の思いや考えが相手に正しく伝わる表現方法を身に付けること、そのためにも落ち着いて他者と関わることができるようになること**ですね。



2 長期目標と短期目標を考えましょう

長期目標

自分の思いや考えを相手に正しく伝えるための表現方法を身に付けることで、落ち着いて相手とやりとりすることができる

短期目標

手がかりを用いて、自分の思いや考えを相手に伝えようとする事ができる

個別の指導計画を作成する時は、長期目標は「1年間」、短期目標は「学期ごと」で立てましょう。

だいですけくんの**学習意欲を引き出す**内容を取り上げましょう

3 短期目標を達成するために、具体的な指導内容を考えましょう

<p>①自分の思いや考えを伝えるために語いを増やし、手がかりを用いて表現する方法を身につける</p> <p>○教師が、だいですけくんの思いや考えを言語化することで、状況に合った語いを増やす。【コ(3)】</p> <p>○言語化することが難しい表現は、単語カードや絵カード等の手がかりを用いることで、相手に自分の思いや考えを伝えることができることを知る。【人(1)、コ(2)(4)】</p>	<p>②落ち着いて自分の思いや考えを伝える</p> <p>○だいですけくんの関心のある話題を取り上げたロールプレイを通じて、相手の話を聞いて話したり、穏やかな口調で相手に接したりする。【心(3)、人(1)、コ(1)(2)】</p> <p>○発表場面では、ワークシートやノートに一度、自分の伝えたいことを書きとめてから伝える。【心(1)、コ(4)】</p>
---	--

※【 】は、6区分27項目の内容を指します。

だいですけくんには、「**心理的な安定**」「**人間関係の形成**」「**コミュニケーション**」を関連付けて指導しましょう。



自立活動の時間における指導だけでなく、**他の指導場面でも意識して取り組み**ましょう。

自閉症のある子どもの自立活動の授業を組み立てる上での要点

I. 個々の子どもにつけたい力(指導目標)を絞り込み、具体化しましょう

II. 自閉症の特性を踏まえて指導方法を工夫しましょう

- 困った行動だけでなく、その子にとっての強み(得意なこと、興味や関心)を押さえましょう
- 困った行動が生じている理由を考えましょう
- 子どもにつけたい力を具体化しましょう
- 長期目標→短期目標→本時の目標と目標間のつながりを意識しましょう



- 子どもの興味や関心を取り入れた学習活動や教材を取り上げ、動機付けを高めましょう
- 子どもの主体的な発言(つぶやき)や行動を大切にしましょう
- 視覚的な手がかりは、何のために用いるのかを明確にしましょう
- 情報は、整理して伝えましょう

III. 指導の振り返りをして、授業改善に活かしましょう



PDCAサイクルを意識して、自立活動の指導を行いましょう

- ①指示・教示は、子どもが理解できる伝え方でしたか？
- ②発問の意図は、子どもに伝わっていましたか？
- ③教材は、子どもの理解に応じた内容、興味・関心を喚起するものでしたか？
- ④学習環境(座席配置や板書等)は、子どもの活動への参加や理解を促すものでしたか？
- ⑤どの場面で、子どもは困難さを感じて(つまずいて)いましたか？それはなぜだったのでしょうか？
- ⑥どの場面で、子どもは主体的に学んでいましたか？それはなぜだったのでしょうか？

個別の指導計画に基づいて、個々の指導目標の達成状況を振り返りましょう

指導による「子どもの変容」を捉えることが大切です



「自閉症のある子どもの自立活動の授業作りの要点」については、こちらのリーフレットをご覧ください。



「指導目標の設定(見直し)のポイント」については、こちらのリーフレットをご覧ください。

本リーフレットは、研究協力者の皆様のご協力をいただき作成しました。

- 金子 道子 先生(千葉県柏市立西原小学校)
- 南 友珠 先生(京都府長岡京市立長岡第七小学校)
- 島田 千晶 先生、三浦 智子先生(福井県鯖江市惜陰小学校)
- 北村 英之 先生(福井県福井市立灯明寺中学校)
- 小林 倫代 先生(国立特別支援教育総合研究所 名誉所員)
- 野呂 文行 先生(筑波大学人間系 教授)
- 自閉症教育研究班(柳澤 亜希子、李 熙馥、棟方 哲弥)

<発行元>

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1
TEL: 046-839-6803 FAX: 046-839-6918

<問い合わせ先>

インクルーシブ教育システム推進センター 主任研究員 柳澤 亜希子(自閉症教育研究班長)
(令和2年5月発行)